

【特別寄稿】桐枝会 会報 No. 7 & 卒業生からの報告③

筑波大学 医療科学類同窓会 『桐枝会』



今回は、学生役員として桐枝会の運営に携わっている3人に、自己紹介を兼ねて原稿を寄せてもらいました。

富岡さん

初めまして、1年の富岡美咲といたします。私は全学の女子サッカー部に所属して、勉強と部活で忙しいなりに充実した毎日を過ごしています！出身は三重県なので、初めのうちは店の名前を覚えたりするのに必死でした。あと自転車の多さに驚愕しました。方向音痴なので未だに道がよくわかりませんが、毎日ひたすらに自転車こいでます。至らない点が多いですが、迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

日置さん

新役員になりました日置咲奈です。医学バドミントン部に所属しています。好きな食べ物はグレープフルーツで、嫌いな食べ物はキノコです。頑張りますのでよろしくお願いします。

原野さん

先日のマウスの解剖を躊躇無く行えたこ

とに自分で驚いた原野です。寧ろレポートの方が憂鬱です。それはさて置き、今年度新しく役員になりました。私は医学硬式庭球部に所属していて、時間割の詰まった医療科ですが勉強と両立出来るよう頑張っています。なので正直言って、一年のうちからこれ以上忙しくなって大丈夫かなと思います。けれども桐枝会が滞りなく運営できるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

【卒業生からの近況報告】③

筑波大学大学院人間総合科学研究科一貫制博士課程体育科学専攻（現博士後期課程）
三好寛和

大学4年間を終えた後、就職するか大学院に進むかは、おそらく一生を左右する大きな分岐点になると思います。私が体育科学専攻の一貫制博士課程（現在は博士前期課程と博士後期課程に分かれています）への進学を決めたことも、やはり自分の人生にとって大きな分岐点となりました。

私は現在「歩行中の不安定性と転倒との関連」というテーマで、転倒予防のための研究を行っています。医学の研究と比較すると、金銭面、設備面で困難は多いですが、より実践的な応用という点で非常にやりがいを感じています。ある先生が「医学が（病気を治す点で）マイナスをゼロにする分野なら、体育はゼロをプラスにする分野である」と言っていました。医療によって回復

した健康・体力を、今度は維持・向上させていくという一連の流れを考えると、医学と体育の繋がりや連携の必要性を感じます。体育の世界に身を投じて初めて見えてくることも多く、非常に新鮮な毎日です。

このように、今でこそ体育の世界にどっぷりと浸かっていますが、大学に入った時分は新たに学ぶ医学への興味や医療従事者への憧れもあり、漠然とですが臨床検査技師という道を考えていました。しかし、大学4年の病院実習を通して、何かもっと人と接する仕事に就きたいと思うようになり、その時から体育の分野への転身を考え始めました。

しかし、私はすぐに就職するのではなく、体育科学の知識と新たな資格の取得を考え、大学院に進学しました。これは大学院に入ってからわかったことですが、医学と体育は共通する部分が多く、扱う単位がミクロかマクロかの違いだけであって、人間を研究するという点では同じであるということを確認しました。つまり、体育科学という分野であっても、医学の知識が非常に役立つし重要であるということ。だから、皆さんが今後どのような道に進むにしても、今しっかり学んでおくことをお勧めします。また、大学で得た臨床検査技師の資格は体育の分野でも幅が利くもので、私は臨床検査技師の資格を基に、健康運動指導士の資格を取得しました。そして今年、運よく某フィットネスクラブの総合職で内定を頂くことができました。これからは、医学と体育両方の立場から「健康」を分析し、多様なニーズに応じた運動プログラムや情報を発信していきたいと考えています。

私が大学、そして大学院を経て学んだこ

とは、「自分と向き合うことの大切さ」です。自分はどんな性格で、何が得意で、何が不得意なのか。そして、今自分は何がしたくて、その目的の実現には何が必要なのか。勉強と遊びの合間にそんなことも考えていけば、進むべき道は自ずと見えてくるのかなと思います。ある有名な生物学者はこう言っています。「行動しない後悔より、行動した後悔の方がいい」と。やりたいことが見つかった時は、とりあえず1歩を踏み出してみるのもいいかもしれません。